

マーケットの動き（2026年1月26日～1月30日）

先週の米国国債市場は、前週末比でほぼ横ばいでした。

28日まで開催されたFOMC（米国連邦公開市場委員会）で4会合ぶりに利下げを見送りました。29日には米ハイテク株安を受けて、相対的に安全資産とされる債券に買いが入ったものの、次期FRB議長に関する指名報道が不透明感を生み、売り材料として意識されたため、全体としては方向感の乏しい展開となりました。

欧州国債市場は、英国金利がほぼ横ばいだった一方、ドイツ金利は低下しました。

投資環境見通し（2026年1月）

長期金利は、米国では神経質な展開、欧州（ドイツ）では上昇圧力がかなりやすい

米国：底堅い景気一方で雇用が着実に減速する中、FRB（米国連邦準備制度理事会）議長の後任人事と金融政策を巡る思惑は残るものの、過度な利下げがインフレにつながるとの見方もあり、長期金利はレンジ内で神経質な展開になるとみています。

欧州：ECB（欧州中央銀行）は景気およびインフレ見通しを引き上げました。当面は政策金利を据え置くとの見方が広がる中、これまでの財政拡張姿勢に加えてウクライナ支援に伴う債券発行増加が意識されることから、ドイツ長期金利は上昇圧力がかなりやすい状況とみています。

	1月30日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.26	0.02	0.13	▲0.11	▲0.27
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	664.21	▲1.81%	▲0.43%	7.77%	9.95%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

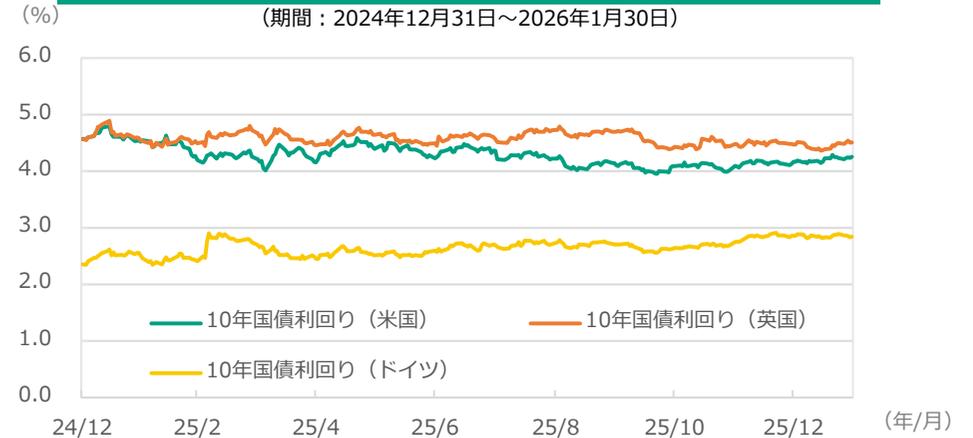
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202601_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2024年12月31日～2026年1月30日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2024年12月31日～2026年1月30日）



※2024年12月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成